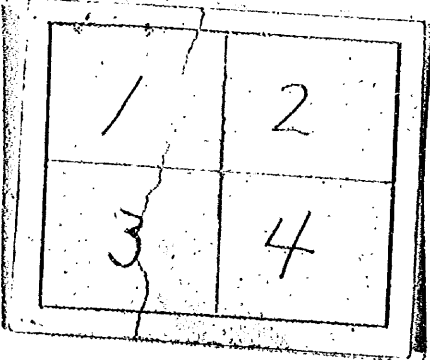


分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍

部隊名

(四)

通稱號

郵便所名

全般概要						隊別	隊長名 (内は先代を不示す)	開入 戦時 駐屯地	戦斗間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ運の變動	入ソ人員 隊別計	滿洲残留		
轉入														轉出	
十九年以降						十九年以降						員人編			
隊	聯	隊中砲兵歩	隊中信通	奉行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中銃關機三第	別	開入	戦時	駐屯地	戦斗間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ運の變動	入ソ人員 隊別計	滿洲残留
	少尉 千葉	少尉 寄神 少隊長 吉村善重郎	中尉 廣瀬 保	見士	中尉(兼任) 丹野 利助	中尉 丹野 利助				安東					
		七	右	同	同										
		三團聯隊中尉の指揮下に入る	主力は重砲、一ヶ小隊は七連隊あり												
		八、二六挺古に於て 小野寺(聯隊)大隊及び一六 大隊長(原中尉)に編入													

聯	隊中砲兵歩	隊中信通	率行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中就調機三第	別隊	名
少尉 千葉	少尉 奇神 少隊長 吉村善重郎	中尉 廣瀬 保	見土	中尉(兼任) 丹野 利助	中尉 丹野 利助	()内は先代を示す 隊長 名	
	七 星	右 同	右 同	右 同	安 東	戦 闘 時 間 駐 屯 地	
						戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗	
		三浦藤松中尉の指揮下に入る				終 戦 後 の 人 員 變 動	
						作 業 大 隊 より 入「ソ」迄の變動	
						隊 別 計	
						入「ソ」人員	
						滿 洲 残 留	
						收 容 所 名	
						員 所 人	
						死 亡	
						滿 洲 領 域 計	
						歸 還 人 員	
						者 狀 況 不 明 數	

(四)

通稱號

郵便所名

隊小馬乘	李行隊聯	隊中砲兵歩	隊中信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊六三
曹長 水木秀五郎	少尉 千葉	少尉 寄神 少尉 吉村善重郎	中尉 廣瀬保	見士	
約40					
安東		七 星	右 同	右 同	右
戦死三、負傷一、病死二 部隊本部と行動す		三箇聯隊中尉の指揮下に入る	主力は東安、一ヶ小隊は七星にあり		

降伏後、夫々軍旗を掲げ、豊島島に向ふ。大部分は復讐した。

八、二六拉古に於て、小野寺(善重)大隊及び一六大隊長(豊島中尉)に加入

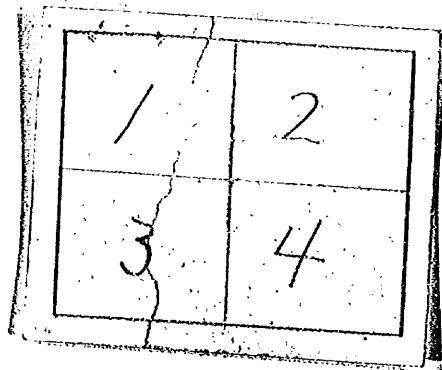
隊小馬乘	李行隊騎	隊中砲兵歩	隊中信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊六三第
曹長 水木秀五郎	少尉 千葉	少尉 奇神 少隊長 吉村善重郎	中尉 廣瀬 保	見士	見士
約40					
安東		七 星	右 同	右 同	右 同
戦死三、負傷一、病死二 部隊本部と行動す		三浦勝中尉の指揮下に入る	主力は東安、一ヶ小隊は七星にあり		

隊伏後には天々草園行動となり、重運馬に向
ふ大部分は慎重した

八、二六柱古に於て
小野守(中尉)大隊及び一六
大隊長(中尉)に編入

分割撮影ターゲット

分割した
部分の
撮影順序



分割撮影
した理由

A 3 判 以 上 の た め

上記のとおり分割撮影した事を証明する。

第五軍第一二三五師團

部隊名

歩兵第三七〇聯隊(一)

通稱 眞心二五二五五二二〇五五四

郵便所名

全般概要

編成地、林口
人員概数二五〇〇

十九年以降
十九年以降

この部隊は... (Detailed description of the unit's formation and history, including mentions of various battalions and their movements.)

編成完了に至る間... (Details regarding the unit's composition and changes over time.)

第一大隊に... (Information about the first battalion's activities and status.)

第二大隊に... (Information about the second battalion's activities and status.)

第三大隊に... (Information about the third battalion's activities and status.)

第四大隊に... (Information about the fourth battalion's activities and status.)

第五大隊に... (Information about the fifth battalion's activities and status.)

第六大隊に... (Information about the sixth battalion's activities and status.)

第七大隊に... (Information about the seventh battalion's activities and status.)

第八大隊に... (Information about the eighth battalion's activities and status.)

第九大隊に... (Information about the ninth battalion's activities and status.)

3409名 (20.7.10編成)

別	人員編成				駐屯地	戦間状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソノ人の入ソノ入員	満洲残留
	隊長名	副官	中尉	少尉					
第一本隊 (標)	中佐 飯塚 文二	副官 坂田 力三		少佐 久信田 博 副官 岩間 博	林口 山楚	鞍山に於て陣地構築中... (戦闘状況)	終戦後、鞍山に留置され、坂田副官以下は同口拉古に向ふ... (戦後人員)	拉古一丸、二、六、七、八、九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇	拉古
第二中隊	中尉 辨田 次郎			少尉 島川 邦廣		東支隊方面に後進... (戦間状況)		田口大尉長長田大尉歩兵三三九隊を編入... (戦後人員)	
第三中隊	中尉 (戦死) 山崎 陸夫					朝鮮方面に後進... (戦間状況)			

隊名	別隊	隊長名	人員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ人の變動	入ソノ人員	滿洲残留	收容所名	所入	死亡	歸還人員	状況不明者
步兵第三七〇聯隊(一)	聯隊長	中佐 多喜 弘 (大佐 飯塚 文二) 副官 坂田 力三	約80	林 口 楚 山	楚山に於て陣地構築守備八、一、一愛河に陣地八、一、一五迄河沿附近で戦八、一、一五夜退却途飯塚道河(向)八、一、一八阿地へ退却	武舞後、聯隊長に留置され、坂田副官以下は河口拉古に向ふ八、一九拉古着	拉古九、二「コロロ」班「オボフカ」班「ロカシ」附近で農業に従事	入ソノ人員	滿洲残留	收容所名	所入	死亡	歸還人員	状況不明者
第一第一大隊(櫻)	少佐 久信田 廣 副官 岩間 博	18			東京方面に後退 横道河子へ退却									
第二中隊(柳)	少尉 鳥川 邦廣	約170			第三大隊の戦場に協力し、八、二四竹馬嶺で戦死(約四〇)									
第二中隊(莖)	中尉 榊田 次郎	約170			東京方面に後退 周子川沿河沿附近で戦死(約三〇)									
第三中隊(楠)	中尉(戦死) 山崎 陸夫	約170			師團司令部に派遣中、師團司令部と行動を共にし、竹林で全滅したらしい 残骸は大隊主力牡丹江後退後も、そのまゝ戦死を繰り返八、一八迄に戦死三、負傷一〇 八、一八陣地を撤収牡丹江に向ふ									

連籍號 眞心二五二五五(二一〇五四) 郵便所名

第一大隊 八、一、一、馬隊本部と共に
 東河に轉進し、八、一五迄
 戦半、四日一九、〇〇附近
 河子に戦退途中、江渡河
 附近で戦退の攻撃を受け、河
 渡河のほとり、一八、一八、河
 渡河、八、一八、河、主力の行
 入隊の損害に相当多数にの
 なる様である。

東安の下士は、團司令部
 及第二大隊と同行八、三〇
 「ロムンモリス」に

第一大隊
 八、一、一、馬隊本部と共に
 東河に轉進し、八、一五迄
 戦半、四日一九、〇〇附近
 河子に戦退途中、江渡河
 附近で戦退の攻撃を受け、河
 渡河のほとり、一八、一八、河
 渡河、八、一八、河、主力の行
 入隊の損害に相当多数にの
 なる様である。

東安の下士は、團司令部
 及第二大隊と同行八、三〇
 「ロムンモリス」に

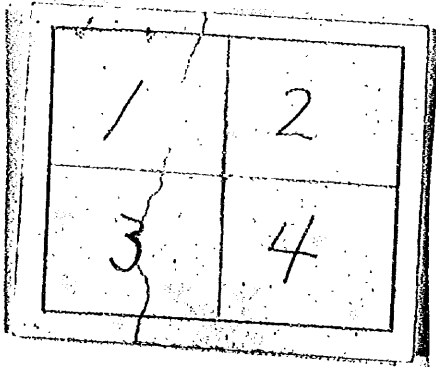
3409名 (20.7.10編成)

隊中銃(機)關機一第	隊中(補)三第	隊中(整)二第	隊中(補)一第	部(機)本隊大	部(機)本隊大
中尉 森 六郎	中尉(戦死) 山崎 陸夫	中尉 神田 大郎	少尉 島川 邦廣	少佐 久松三 廣 副官 岩間 博	少佐 久松三 廣 副官 岩間 博
約100	約170	約170	約170	13	13
東京城方面に後退	<p> 團司令部に戦退中、團司令部と行動を 共にし、津林で全滅したらしい。 遺物は大隊主力が江渡河を渡り、そのま ず、八、一八、河に戦死三、負傷一〇 八、一八、河を渡り、八、一八、河に戦死 </p>	<p> 東京城方面に後退 周旋、河を渡り、河を渡り、河を渡り 河子を戦退、八、一八、河に戦死、負傷一〇 </p>	<p> 第三大隊の戦退に協力し、東京城方面に後退 河子を戦退、八、一八、河に戦死、負傷一〇 </p>	<p> 河子を戦退、八、一八、河に戦死、負傷一〇 </p>	<p> 河子を戦退、八、一八、河に戦死、負傷一〇 </p>

田中本隊ついで河を渡り、河を渡り、河を渡り
 ミニ九程隊を編入、河を渡り、河を渡り、河を渡り
 リ、河を渡り、河を渡り、河を渡り

隊中銃(機)關機一第	隊中(補)三第	隊中(重)二第	隊中(機)一第	部(機)本隊大一第
中尉 森 六郎	中尉(戦死) 山崎 陸夫	中尉 神田 次郎	少尉 鳥川 邦廣	少佐 久松三郎 副官 若岡 謙
約100	約170	約170	約170	13
東京城方面に援送	<p>師團司令部に援送中、師團司令部と行動を共にし、森林で全滅したらしい。残骸は大隊主力が丹江渡過後、そのまゝ戦手を離れ、一八迄に戦死三、負傷一〇八、一八陣地を撤収、丹江に向ふ。</p>	<p>東京城方面に援送 周旋し、内務省に送られ、南後援道 新子九幡連八二七式(解)形(三)</p>	<p>第三大隊の戦場に協力し、軍中隊員等 が戦死した約二五〇名、二〇〇名は戦死、二 解(約四)</p>	<p>東京城方面に援送 戦死した約二五〇名</p>
			<p>田中隊長(長官)大敵歩兵 三〇九程隊員編入ヨリモ リムシ、</p>	
		<p>姓名簿二六六隊員編入 ソノカマエ</p>		
			<p>ヨロシモリスレサカ 本所</p>	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

隊名

(一)

通稱號

郵便所名

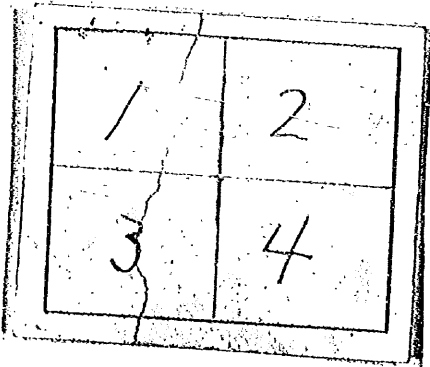
隊別	隊名	開入時	駐屯地	戦闘箇の状況及損耗	終戦後の人員變動	入ソノ人員	満洲残留	收容所	歸還人員	状況不明者數
第一師團歩兵小隊	准尉 林 正吉	約30		東京方面に派遣 ハコノ換の敵軍南後編連河子ト 横道月地を攻撃 獲死 二〇〇 三五名 方不殺 若干名		持名一不取つ長全隊大隊 編入ソノ人員トシテヘ				
第二師團本部	大尉 益子 金曜 副官 堀田 喜一	10		神代附近の戦場にて捕虜の調査を繼續						
第四師團中隊	中尉 豊谷 勝四	約170		麓山陣地に殘置、爾後逐次撤退河子に歸						
第五師團中隊	中尉 中島 之人	約170		七基に殘置、神代附近で交戦相當の損害を						

一〇、三二、同地江屯の八
 路軍に依り式装解除さる
 歩兵一ヶ中隊は朝鮮に向ひ
 肥田大隊長(富永一名)亦
 朝鮮に向ふ
 該隊大部分は武庫後、同拓
 新に遷移せしに「リッ」京
 表野陣に入る
 なほ一部は漢江河子に屯駐
 せし第五中隊と機銃就
 一小隊の一部も延大岡地に
 集結(岩間連隊以下約一五
 〇名)

隊小砲兵歩隊大二第	隊中(風)六第	隊中(柱)五第	隊中(楯)四第	部本(楯)隊大二第	李行隊大一第
曹長 木村 正武	少尉 吉田 弘	中尉 中島 之人	中尉 鹽谷 勝四	大尉 益子 金澤 副官 堀田 喜一	
約30	約170	約170	約170	10	
	七里に砲撃、森林地帯で支隊司令部の砲撃も あらし。	楚山陣地に砲撃、爾後漢江河子に屯 駐	楊花附近の戦場に於て約管の捕獲もあ る。		

隊小砲兵歩隊大二第	隊中(風)六第	隊中(柱)五第	隊中(楨)四第	部本(標)隊大二第	李行隊大一第
曹長 木村 正武	少尉 吉田 弘	中尉 中島 之人	中尉 豊谷 勝四	大尉 益子 金麿 副官 堀田 喜一	
約30	約170	約170	約170	10	
	七尾に渡り、神林附近で支隊司令部の設置を おしよ。	徳山陣地に到着、爾後經大槻渡河子に陣 取。	神林附近の陣地に於て糧食の調査ある模様		

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍

部隊名

(三)

通稱號

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員人別編

別 隊
隊長名
()内は先代を示す

戦 闘 人
時 員

駐 屯 地
平 時
戦 時

戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗

終 戦 後 の 人 員 變 動

作 業 大 隊 より
入 っ 返 の 變 動

隊 別 計
入 っ 入 員

滿 洲 残 留

収 容 収 入

<p>第三大隊 主力は龍田で戦後捕虜となり 後方へ送られた。八、九月に 愛知、岐阜方面へ移動し、 愛知、岐阜方面に於て交戦 相當の損害ある模様。</p>	<p>八、一四より横道河子に後 進</p>	<p>八、一八横道河子で武装解 隊</p>	<p>八、二〇拉古に收容</p>	<p>八、二九拉古出發後、松尾河を 經由、代官機送にて九、三、 ロカシオアカ</p>	<p>一一、一八ヘルシユウド</p>	<p>一一、五、三〇ドノマアカ と暮らす。</p>
<p>第二機師(推) 隊 中尉 約100</p>	<p>第二大隊 行 隊 少佐 瀧川 昇 副官 金澤 芳三 約11</p>	<p>第七(推) 隊 中 少尉 小野寺新次郎 約170</p>	<p>第八(推) 隊 少尉 岩佐 松雄 約170</p>	<p>戦闘間の状況及損耗 赤田具士の指揮する一ヶ小隊は第五中隊と 行動を共にす。</p>	<p>愛知、岐阜附近の戦場で相當の損害あり</p>	<p>愛知、岐阜附近の戦場で相當の損害あり</p>
<p>終戦後の人員變動</p>						
<p>作業大隊より入っ返の變動</p>						
<p>隊別計 入っ入員 滿洲残留</p>						

隊名

(三)

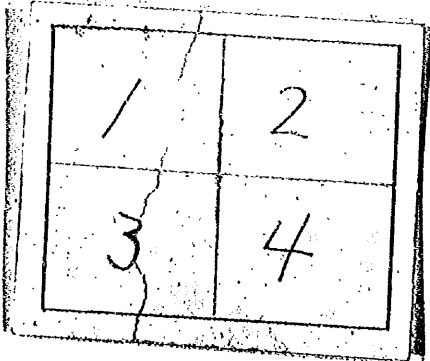
通稱號

郵便所名

第八	隊中(格)七第	部本(綱)隊大三第	李行隊大二第	隊銃關機(推)二第	別隊
少尉 岩佐 松雄	少尉 小野寺新次郎	少佐 瀧川 昇 副官 金澤 芳三		中尉	隊長名 ()内は先代を示す
170	約170	11		約100	戦時人員
					平時駐屯地
					戦闘間の状況及損耗
一部は礮刀石附近に陣地を築き、一四重砲を敷いた。武裝解除後、後退途中約二〇名の犠牲者を出した。	夏河、被河附近の戦いで相當の損害あり	夏河、被河附近の戦いで相當の損害あり		宗田兵士の指揮する一ヶ小隊は第三中隊と行動を共にす	終戦後の人員變動
					作業大隊より入ソノ迄の變動
					隊別入ソノ人員計
					滿洲殘留
					收容所名
					所入死亡
					滿洲より歸還人員計
					者數 狀況不明

隊 中 九 第	隊 中 (橋) 八 第	隊 中 (橋) 七 第	部 本 (桐) 隊 大 三 第	李 行 隊 大 二 第
中尉 竹川榮三郎	少尉 岩佐 松雄	少尉 小野寺新次郎	少佐 瀧川 昇 副官 金澤 芳三	
約170	約170	約170	11	
愛宕、被河附近の戦いで相當の損害あり	愛宕、被河附近の戦いで相當の損害あり 一部は船刀石附近に陣地占領八、一回激進 戦化にて武裝解除する、後退途中約二〇名 は龍川少佐と同行す	愛宕、被河附近の戦いで相當の損害あり		

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍

部隊名

(四)

通稱號

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降
轉出
十九年以降

編制人員

聯	隊中(橋)砲兵歩	隊中(竹)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中銃關機(橋)三第	別隊
	少尉 高島 久二	中尉 小野寺 基雄		曹長 相澤 清吾	中尉 奥津	隊長名 ()内は先代を示す
	約70	約160		約30	約100	開人 戦員 時
						駐屯地
						戦闘間の状況及損耗
		遺棄本隊と行跡を共にす			八八、山本砲兵隊、岡谷八二、 江丹江知外、轉運隊、機務隊、地工福 第、八三、戦中八二、江丹江市	終戦後の人員變動
						作業大隊より 入ソ迄の變動
						隊別計 入ソ人員
						満洲 残留
						取

部隊名

聯	隊中(槍)砲兵歩	隊中(竹)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊中銃關機(槍)三第	別	隊
	少尉 高昌 久二	中尉 小野寺泰雄		曹長 相澤 清吾	中尉 奥津	隊長名 (内は先代を示す)	
	約70	約160		約30	約100	戦員	開人
						平時	駐屯地
						戦時	
		部隊本部と行動を共にす				戦闘間の状況及損耗 八八 山陣に獲ちた中隊八八 狂田江知外に特選機銃隊地を捕 獲し三三三隊中八八三三江丹江市八八	
						終戦後の人員變動 入ソソ迄の變動	
						隊別	入ソソ人員
						計	満洲残留
						收容所名	收容所
						死亡	死亡
						満洲より	歸還人員
						領	領
						者	状況不明
						数	数

(四)

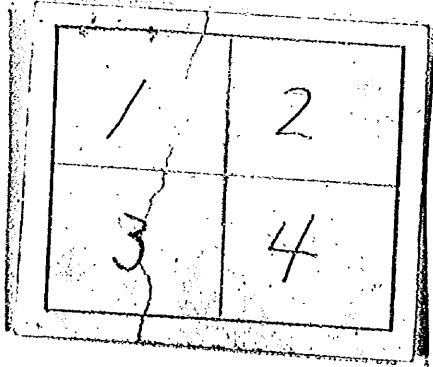
通稱號

郵便所名

隊小(柳)馬乘	李行隊勝	隊中(櫓)砲兵歩	隊中(竹)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第
少尉 黒川		少尉 高昌 久二	中尉 小野 寺 泰 雄		中尉 高 橋 三 郎
約70		約70	約160		約30
			別隊本部と行動を共にす		

隊小(柳)馬乘	李行隊聯	隊中(槽)砲兵步	隊中(竹)信通	李行隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第	隊小砲兵歩隊大三第
少尉 黒川		少尉 高島 久二	中尉 小野寺泰雄		少尉 高島 久二	
約70		約70	約160		約20	約200
			聯隊本部と行動を共にす			

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一三五師團 第一三五師團挺進大隊

通稱 眞心二五二五七二二〇五九

郵便所名

全般概要

轉入 轉出
 十九年以降 十九年以降

員人編

隊長名
 (内は先代を示す)

戦員 戦時
 駐屯地

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より入「ソ」迄の變動

隊別計

入「ソ」人員

満洲残留

二〇、八、二八海林にて
 第一三六大隊(約一〇名)
 九月中旬海林出發
 九、二九イルクツツ第一
 收容所に入所

八、一〇少尉、敵の林口進出を待ち、進軍の目的を以て各小隊(約六〇)毎(第二小隊は林口東方山中)に分隊伏在したるも断念し、七里嶺地に後退
 第二小隊(小隊長少尉安藤達之)は八、一四まで該地に滞在、八、一六横道河子、九、四新安鎮にて武勝(第二小隊現在員五七名他に二名降参)

八、一〇牡丹江へ、八、一二愛河にて戦斗準備に入る

八、一三、北見具以下約二五名は横道河子に轉進

八、一六、同地で武裝解除せらる

主力は八、二四、一面渡を越して牡丹江に、更に海林收容所に入所

九、一三、一三六一三七、一四三の三々作業大隊に分隊編入

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

二「ソ」軍事務時、機關銃隊より約五〇名送還されてきた(長は其揚中編一三好中尉、北見具と交代)作業中隊の三分の一を北見具士が指揮して八、二〇牡丹江に向ふ(主力は連れて由緒)八、二二、四一各牡丹江に到着愛河の陣地に入る

1130 (20.9.10編成)

隊	本	第一	第二	第三
少佐 田川 正	中尉 柴田儀一郎	中尉 川島 三好	少尉 千田	
約360	約360	約360	約360	約360
林口	右同	右同	右同	右同
八、一〇牡丹江へ、八、一二愛河にて戦斗準備に入る	八、一〇牡丹江へ、八、一二愛河にて戦斗準備に入る	八、一〇牡丹江へ、八、一二愛河にて戦斗準備に入る	八、一〇牡丹江へ、八、一二愛河にて戦斗準備に入る	八、一〇少尉、敵の林口進出を待ち、進軍の目的を以て各小隊(約六〇)毎(第二小隊は林口東方山中)に分隊伏在したるも断念し、七里嶺地に後退 第二小隊(小隊長少尉安藤達之)は八、一四まで該地に滞在、八、一六横道河子、九、四新安鎮にて武勝(第二小隊現在員五七名他に二名降参)
作業大隊より入「ソ」迄の變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動

第一三五師團挺進大隊

通稱 號

眞心二五二五七(二)一〇五九

郵便所名

中 三 第 隊	中 二 第 隊	中 一 第 隊	部 本	別 隊 名	職 別	駐 屯 地	戦 況	終戦後の人員變動	作業大隊より入「ソ」連の變動	入「ソ」人員	滿洲残留	收容所名	所 人	死 亡	滿洲より領得	狀況不明者 数
少尉 千田	中尉 (中尉 川島 三好)	中尉 柴田儀一郎	少佐 田川 正	() 丙は先代を承す	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗	戰鬥間の狀況及損耗
約360 (6ヶ小隊 1小約66)	約360	約360			八、一〇牡丹江へ、八、一二遼河にて戰鬥準備に入る。	八、一〇牡丹江へ、八、一二遼河にて戰鬥準備に入る。	八、一〇牡丹江へ、八、一二遼河にて戰鬥準備に入る。	八、一〇牡丹江へ、八、一二遼河にて戰鬥準備に入る。	二〇、八、二八海林にて第一三六大隊(約一〇名) 九、九中甸海林出發 九、二九イルタトゥツ第一收容所へ入所	隊別計	收容所名	人員	死亡	滿洲より領得	狀況不明者 数	
右 同	右 同	右 同	口 林		八、一〇夕刻、敵の林口進出を待ち、進軍の目的を以て各小隊(約六〇)並(第二小隊は林口東方山中)に分隊伏在したるも斷念し、七里陣地に後退。第二小隊(小隊長少尉安藤達之)は八、一四まで該地に滞在、八、一六横道河子、九、四新安嶺にて武裝(第二小隊現在員五七名)に二名落伍。							バイソニエフカ イルグーツク第一 收容所 タイセット第二 收容所				

COLLECTION OF
JAPANESE DOCUMENTS
ON THE
SINO-JAPANESE WAR
OF 1894-1895

八、一三、北見見守以下約
一五名は後述河子と轉送
八、一六、同地で武装解除
せらる

主力は八、二四、一河渡を
經て牡丹江に、更に海林收
容所に入所

九、一三、一三六、一三七、
一四三の三ヶ作業大隊に分
隊編入

「一」軍參戰時、機關銃隊
より約五〇名送達されて
た（長は片桐中尉、三好中
尉、北見見守と交代）作業
中隊の三分の一を北見見守
が指揮して八、一〇牡丹江
に向ふ（主力は連れて出隊）
八、一二、四一名牡丹江に
到着、河子の陣地に入る
一二、〇〇河子に集結し三
晝夜の行軍で横道河子着入
員三五名で作業隊主力とは
合しない
横道河子より更に吉林に向
ひ同地北方約四〇里で萬人
自衛隊と交戦し、二六名は
武装解除された
其のうち一名は河子の
營地に潜伏してゐたが九名
と二名に分れ、二名の方は
國民軍と共に攻撃して新京
に入り、八路軍の捕虜とな
る

1130 (20.9.10編成)

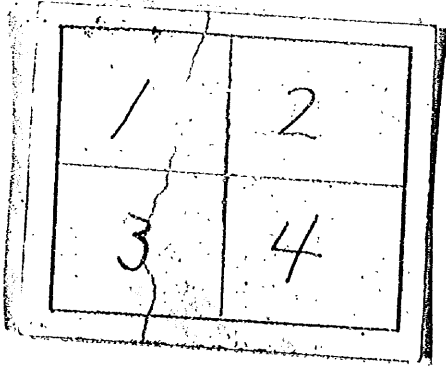
部	第一中隊	第二中隊	第三中隊
	中尉 柴田儀一郎	中尉 三好川島 (中尉 川島)	少尉 千田
	約360	約360	約360 (6ヶ小隊 1小約60)
	右同	右同	右同
	八、一〇牡丹江、八、一二河子にて戦斗 準備に入る	八、一〇牡丹江、八、一二、河子にて戦斗 準備に入る	八、一〇夕刻、敵の河口進出を待ち、敵軍 の目的を以て各小隊（約六〇）毎（第二小 隊は河口東方山中）に分隊伏在したるも敵 全し、七里陣地に集結 第二小隊（小隊長少尉安藤之）は八、一 四まで敵地に滞在、八、一六横道河子、九、 四新安張にて武備（第二小隊現在員五七名 備に二名降伍）

NO. 8
JAPANESE DOCUMENTS
ON THE
SINO-JAPANESE WAR
OF 1894-1895

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第
少尉 千田	中尉 三好 中尉 川島	中尉 柴田儀一郎
約360 <small>(6ヶ小隊 1小約60)</small>	約360	約360
右 同	右 同	右 同
<p>八、一〇夕刻、敵の林口進出を待ち、連隊の目的を以て各小隊(約大〇)並(第二小隊は林口東方山中)に分隊俟在したるも敵本陣、七里陣地に後退</p> <p>第二小隊(小隊長少尉安藤達之)は八、一四まで敵地に滞在、八、一六横道河子、九、四新安嶺にて武備(第二小隊現在員五七名)に二名滞在)</p>	<p>八、一〇牡丹江へ八、一二、雙河にて聯隊準備に入る</p>	<p>八、一〇牡丹江へ、八、一二、雙河にて聯隊準備に入る</p>

シノモツ、第二文
 突撃
 八、一〇牡丹江へ、八、一二、雙河にて聯隊準備に入る

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一三五師團 部隊名 第一三五師團制毒隊

通稱 眞心二五二五六

郵便所名

全般概要		轉入		轉出		員人編		隊名		開人		駐屯地		戰鬥間の狀況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より		入ソ人員		滿洲殘留		收	
		19年以降		19年以降		200名 (20.8.10編成)		()内は先代を不す		時		時						入ソ迄の變動		隊別計				收	
		19年以降		19年以降						時		時												收	

隊名 第一三五師團制毒隊

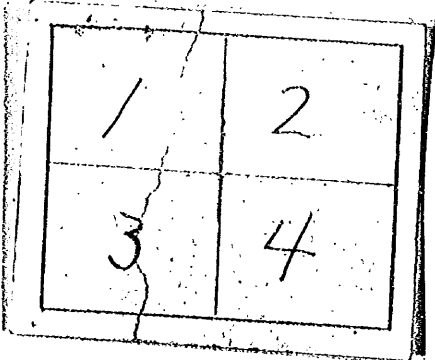
通稱 號 眞心二五二五六

郵便所名

		人員別	
		別	隊
		() 内は先代を示す	
		時	開入
		時	駐屯地
		時	敷
		時	地
		戦闘間の状況及損耗	
		終戦後の人員變動	
		作業大隊より 入ッ返の變動	
		隊別	入ッ人員
		計	
		満洲残留	
		収容所名	收容所
		所入	所
		死亡	
		満洲より	歸還人員
		領計	
		者	状況不明
		数	

200名 (20.8.10編成)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

八、一〇、非谷少佐以下約
二〇〇名(馬約三〇)を東安
より鐵路七里に出る途中
八、一二、突命合に次り強
河に移動、渡河板橋形子で
一三、一五間整平し損害大
なる模様

八、一〇、聯隊本部、第二
大隊本部は西東安を出発
(聯隊長以下約三〇〇名、
約四〇〇名)陸路前進、西東
安より山中に入り、横道河
子山中にて聯隊長以下約二
〇名(聯隊本部員)行方不
明とする(二二、二三頃)
殘餘は蘇田大尉の指揮下に
東安に向ひ、九、八、東安
で武裝解除

千島陣地にありし人員は第
三大隊の指揮下にあり

八、一五、牡丹江に撤退
八、一六、牡丹江に歸還
朝鮮國境より部隊復讐し横
道河子に撤退
八、一八、横道河子で武裝
解除

聯隊長約七〇〇名(馬約
七八〇名)七月中旬入隊せるもの
二〇、一〇、三、チヨンロ
一、二、三、一〇、オボルチ
ヤリ移動

第一大隊
二〇、六、一、一、第二團
中隊、砲兵隊、要務河出
隊、西東安に到着、第一大
隊の、第一、二、三中隊を
編成す

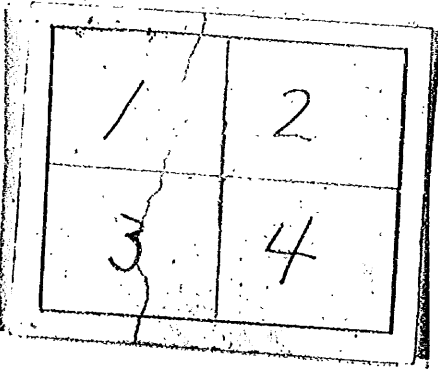
二〇、八、九、大隊長松本
指揮官となり、鐵路西東安
出陣、途中中隊を受くも
大なる損害なく七里陣地に
到着(兵約二〇〇、馬五〇
餘、十糧約八門)、横道河
子大隊長の指揮下に入る

1923 (20.9.10編成)

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 : 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	部
(少尉 千葉 由比)	中尉 鎌倉岩太郎 (大尉)		少佐 井後 次郎 (副官大尉 林) 准尉 前田 武雄	
右 同	右 同	右 同	右 同	
			第一大隊火槍は砲連三八野砲、九〇式野砲	
	八、二三、一軍の隊身に於て負傷、死者 不明			

隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部 本 隊 大 一 第	
(少尉 千葉 由比)	中尉 鎌倉岩太郎 (歸還)		少佐 井後 大郎 (副官大尉 林) 准尉 前田 武雄	
右 同	右 同	右 同	右 同	
	八〇三 五の戦手に於て負傷、行方不明		第一大隊火砲は改造三八野砲、九〇式野砲	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍第一三五師團

部隊名

(二)

通稱號

郵便所名

全般概要

第二大隊
主として第一四四隊を以て
の人員により編成
第五中隊は従前の第五二〇
隊の一中で編成
九、一二、零安で武装解除
零安一團江一牡丹江を編て
入一ノ一ナ

轉入
轉出
十九年以降
十九年以降

編制人員

第	隊中五第	隊中四第	部本隊大二第	列段隊大一第	別隊
五			中尉 加藤 富二	大尉 森田 漢次郎 (零安で自警團に 附殺せらる) 副官 准尉 裏見	隊長名 (内は先代を示す)
					開人 戦時 駐屯地
	右同	右同	右同	凱典	安東西
		火糧は九〇式野砲	火糧は一〇式野砲		戰鬥間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より 入一ソ一迄の變動
					隊別 計 入一ソ一人員 滿洲残留
					收 容

第六隊	第五隊	第四隊	第二大隊本部	第一大隊隊列	隊別
(編成缺)		中尉 加藤 富二	大尉 森田 漢次郎 (導安で自警團に 暗殺せらる) 副官 梶 妻見		隊長名 (内は先代を示す)
					闘人 時買
右同	右同	右同	凱 典	安東西	駐屯地 平時 時敵 時
	大砲は九〇式野砲	大砲は一〇式野砲			戦闘間の状況及損耗
終戦後の人員變動					
作業大隊より 入ッ迄の變動					
隊別 計					
入ッ人員					
満洲残留					
收容所名					
所人					
死亡					
満洲より ソ領 計					
歸還人員					
者 数					
状況不明					

隊名
(一)
通稱號

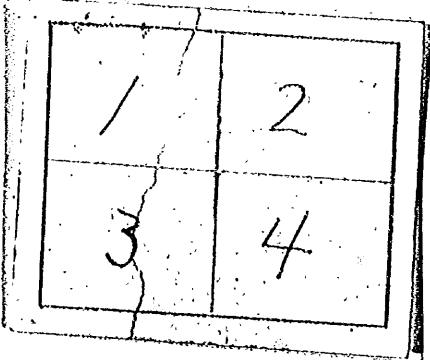
郵便所名

第一号
第二号
第三号
第四号
第五号
第六号
第七号
第八号
第九号
第十号

第一号	第二号	第三号	第四号	第五号	第六号
部本隊大二第	隊中六第 (編成缺)	隊中五第	隊中四第	中尉 加藤 富二	六等 森田 次郎 (常任警備隊) (時給 500円)
副官 裏見 雅尉					
凱 美	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
				火藥は九〇式野砲	火藥は一〇式野砲

第一隊	第二隊	第三隊	第四隊	第五隊	第六隊	第七隊
			中尉 加藤 寛二		(編成表)	大尉 森田 誠 副官 准尉 裏見 (暗号機) (暗号機) (暗号機) (暗号機)
	右同	右同	右同	右同	右同	凱 義
				火砲は九〇式野砲		
						火砲は一〇〇式榴砲

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判以上のため
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第五軍 部隊名

(三)

通稱號

郵便所名

全般概要

轉入

轉出

員人制編

別隊

隊長名
()内は先代を示す

開人
戦時
員

駐屯地
平時
戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソノ迄の變動

入ソノ人員
隊別
計

滿洲
殘留

收容
收容

第三大隊
編制七三三編制地隊を以て
主として改編
道廳第一二河
第三大隊長に藤原長代理と
なり、七尾陣地に於て各隊
(各中隊を合す、第三大
隊全部と、第一、二大隊約
六〇〇)を一括指揮し、八、
一〇頃波河に轉進交戦し、
八、一三社丹江、八、一四
大岡家子、八、一五同地に
於て武装解除

鎌倉中尉以下(人員不明)
北野に配属したようである
長官(中尉)三島邦男(傷)
中尉(中隊長)八木(内)
中尉(中隊長)大森(内)
中尉(中隊長)大森(内)
中尉(中隊長)大森(内)
大森(内)カボレ

第三大隊	第九中隊	第八中隊	第七中隊	第三大隊本部	隊長名 ()内は先代を示す 少佐 林 指樫班長 中尉 田端 邦男	開人 戦時 員	駐屯地 平時 戦時	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソノ迄の變動	入ソノ人員 隊別 計	滿洲 殘留	收容 收容
		(中尉 三島 田端 邦男)					與 凱						
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同									

大 三 第	隊 中 九 第	隊 中 八 第	隊 中 七 第	部 本 隊 大 三 第	別 隊
		(中尉 三島 田端 邦男)		少佐 林 指揮班長 中尉 田端 邦男	隊長名 (内は先代を示す)
					隊員 隊人
右 同	右 同	右 同	右 同	凱 興	駐屯地 平時 戦時
					戦時
					戦斗間の状況及損耗
					終戦後の人員變動
					作業大隊より入ソ返の變動
					隊別 討 入ソ人員
					満洲残留
					收容所名
					所入 死亡
					満洲より領 歸還人員
					者 状況不明 数

隊名

(二)

通稱號

郵便所名

